

平成27年（2015年）ぶらくり会5月例会報告

開催日時：5月19日（火）午後6時30分～午後8時

開催場所：神戸市産業振興センター 801号室

講師：水谷 太一（みずたに たいち）様

柑芦会神戸支部・支部長（和歌山大学経済学部17期卒）

講演テーマ：「四国88カ所歩き遍路巡礼記」

出席者数：20名

お遍路がブームになっており、ツアーなどで巡礼される方もおられるかもしれませんが、水谷講師は、ツアーに乗っかると楽である反面、自由がきかないなど物足りないこともあるということで、ご自身で計画をたてられ、約4年をかけて四国88カ所遍路道を歩かれたそうです。

講演では、遍路道を歩き始めたきっかけ、88カ所巡りで印象に残った札所、行程の立て方等をお話頂きましたので、その要旨をご報告致します。

講師は、歩くことを趣味とされており、環境省が推奨する10の自然歩道のうち、東海、中国、首都圏、四国の各自然歩道を踏破され、現在は九州自然歩道に挑戦されているそうです。

ただ、四国については、四国自然歩道（四国のみち、起点：徳島県鳴門市、終点：徳島県板野町、約1,600Km）と88カ所巡りが重なっているルートが多く、遍路歩き兼ねて歩かれました。

宗教的な意味合いはなく、四国の道を歩く一環として行われた88カ所巡りは、1番札所の徳島県鳴門市・霊山寺を平成17年2月5日にスタートされ、平成21年1月13日に88番札所の香川県さぬき市・大窪寺に参拝され、すべての札所を廻られ結願されました。ところでお参りの順序には1番札所から順番にお参りする「順打ち」と逆の順でお参りする「逆打ち」があるそうですが、講師は「順打ち」でお参りされています。そしてその後、平成21年9月に高野山・奥の院にお礼参りをされております。

総踏破距離約1,600Km、巡礼回数39回・96日間、総費用約100万円（交通費、宿泊費等）だったそうですが、日程は主に週末を挟んで2～3日間、交通手段は電車、バス等の公共交通機関と徒歩だけで、タクシーは出来るだけ使用せず、宿泊は主にビジネスホテルを利用されました。

白装束、すげ笠、金剛杖、納札入に念珠等、お遍路には正式な衣装があるそうですが、講師は衣装には拘らず歩きやすい服装で行かれました。そして、一番札所の霊山寺で求められた納経帳で各札所の御朱印を頂いておられます。なお、御朱印代は一カ寺300円だそうです。

印象に残った札所等として次のいくつかをあげられていました。徳島県では11番札所の藤井寺から12番札所の焼山寺に行く途中の「遍路ころがし」といわれるところで、ここは、細くて険しく、健脚でも5～6時間、普通の脚で8時間程度かかる山道だそうです。

高知県では24番札所の室戸岬の突端に建っている最御崎寺が印象深く、弘法大師空海が苦行した御厨人窟と言われる洞窟が海べりにあるそうです。また、元横綱朝青龍の名前の由来となった青龍寺が36番札所としてあります。

愛媛県では、岩山の中に埋め込まれたような45番札所の岩屋寺があり、88の札所の中で唯一「寺」と名のつかない札所の南光坊が55番札所としてあります。

香川県では、88札所のうち最も標高の高いところにある札所としてその名も雲辺寺（66番札所）があり、同じ境内の中に2つの札所、68番の神恵院と69番の観音院が存在するという珍しいところもあったそうです。

88カ所も巡礼するとなると予め綿密な計画を立てる必要がありますが、講師は行程を決める際には宿泊施設を確認し、交通アクセスを確認し、天候を確認することは勿論のことですが、その2～3回先の計画も念頭に置いて行程を立てられたそうです。それと、大変大事なことですが、道中で日が暮れてきたとか、万が一の際の避難方法等十分考慮した計画を立てられたそうです。

また、地図（1/25000）やガイドブックで研究するとともに、道中のところどころに設置されている遍路道の案内板（コース案内表示板）や道標を頼りに歩かれたそうです。

いかに趣味とはいえ時間をかけてでも目的を達成する講師の肉体的および精神的なパワーには脱帽するしかありません。

皆さんは、講師の様なご趣味をお持ちですか、あるいはジョギング、散歩等の有酸素運動を続けておられますか。

今からでも遅くないと思いますので、お互いに、軽いジョギング、散歩あるいはゴルフ等続け、健康寿命（日本人の平均 男：71歳、女：74歳）を伸ばしたいものです。

ぶらくり会世話人 平林 義康（大学20期）

